

平成29年度 第1回 常磐公園の緑を考える集い

～市民協働による公園管理～



平成29年2月14日撮影



平成29年6月13日撮影

I はじめに

1) スケジュール

平成28年度（3回開催）

- 現在の常磐公園について
- 自然環境調査報告（秋冬）
- 常磐公園における管理方法等の検討

平成29年度予定

第1回 ○春期自然環境調査報告・常磐公園の管理作業

今回

第2回 ○秋期自然環境調査報告
○常磐公園の管理作業・管理の実践内容検討

第3回 ○市民協働による維持・管理の実践内容

来年度以降の開催内容は今年度の状況・進捗程度から決定いたします

3) 本日のプログラム

- 14:00 開会 (5分)
- 14:05 オリエンテーション (5分)
- 14:10 説明・現地視察 (15分)
 - 春期自然環境調査報告
 - 自然更新ゾーンの改良について
 - ブッシュの設置状況について
- 14:25 オオハンゴンソウの除草 (55分)
- 15:20 意見発表 (5分)
- 15:25 今後の予定 (5分)
- 15:30 閉会

現在

3

前回の概要

1) 説明事項

- 冬期自然環境調査結果概要
- ブッシュについて

2) 意見交換

- 環境調査について、気象調査方法は人が実際に感じる気温や風とは違うことに注意すべき
- ブッシュについて、下草は支障になると考えられる。すきとるべきではないか
- ブッシュを観測・管理するうえで指標になるようなものを専門家と協議すべき

4

Ⅱ 春期自然環境調査結果について（速報）

1) 自然環境調査の目的

常磐公園の改修事業完了後の環境調査を行い、環境の変化を把握するとともに、常磐公園の維持管理の手法等を検討する際の資料とするため平成28～29年度の1年間、再度自然環境調査を行います。

2) 進捗と予定

年度 調査項目	平成28年度		平成29年度		備考
	秋	冬	春夏	夏季	
植物調査	○		○	○	樹木調査を除く
鳥類調査	○	○	○		
両生類・は虫類 ・哺乳類調査	○	○	○	○	春季はコウモリ調査のみ実施
魚類調査					
昆虫類調査	○			○	
微気象調査	○	○	○	○	

*以降の調査結果で記載のある用語は以下の通りです。

- ・重要種：天然記念物の指定種や絶滅の恐れのある種のリスト（レッドリスト）に掲載されている種などの保全を要する種
- ・特定外来生物：外来生物法により飼育や移動等に制限を設けられている種
- ・指定外種：北海道生物の多様性の保全等に関する条例により、飼育や移動等に制限を設けられている種

今回速報部分

5

Ⅱ 春期自然環境調査結果について（速報）

3) 春期調査結果（速報）

※調査結果は精査中ですので、今回は概況の速報です。今後の整理により内容は変わる可能性があります。

(1) 植物

- ・「植物相調査」（範囲内を歩いてどんな種があるか確認）、「コドラート調査・断面調査」（代表的な場所で植物がどんな構造を作っているか確認）、「植生図作成調査」（堤防工事部分で植物が面的にどのように分布しているか確認）を実施しました。
- ・調査は5月22日～23日に実施しました。



6

Ⅱ 春期自然環境調査結果について（速報）

3) 春期調査結果（速報）

(1) 植物

- 重要種は以下の7種で、いずれも前回調査時に確認されています。今回確認された種の大半が植栽されたものと推測されます。
 - フクジュソウ（植栽）
 - エゾサンザシ（植栽）
 - キンロバイ（植栽）
 - エゾシモツケ（植栽）
 - ヤマタニタデ（自生）
 - エゾムラサキツツジ（植栽）
 - クロユリ（植栽）
- 特定外来生物は、前回調査時にも確認されたオオハンゴンソウが確認され、指定外来種はイワミツバ、フランスギクの2種が確認されました。
- 堤防整備部でフクジュソウは整備後に確認されませんでした。ヤマトニタデが整備前、整備後で確認されています。



重要種クロユリとその生育環境



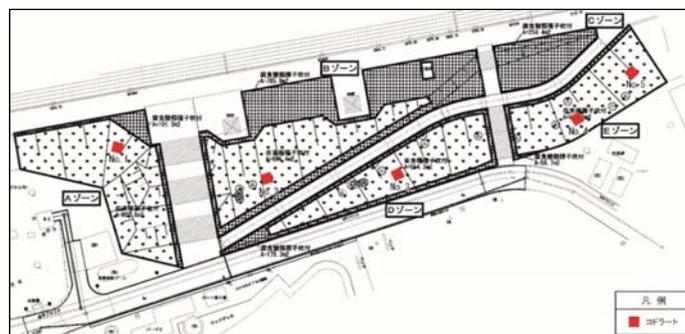
特定外来生物オオハンゴンソウとその生育環境

Ⅱ 春期自然環境調査結果について（速報）

3) 春期調査結果（速報）

(1) 植物

- 在来種種子吹付け法面においては、ほぼ全域をシロツメクサが優占していました。
- Eゾーンの一部では、秋季にシロザ等の一年生草本が優占していましたが、春季はシロツメクサ（多年生草本）の優占度が増加していました。



植生区分の確認



シロツメクサの優占状況

Aゾーン No.1コドラート



シロザの優占状況 (H28秋季)



シロツメクサの優占状況 (H29春季)

Eゾーン No.4コドラートの変遷



コドラート調査

Ⅱ 春期自然環境調査結果について（速報）

3) 春期調査結果（速報）

(1) 植物

- 自然更新ゾーンにおいて、「コドラート調査」、「侵入した木本類の稚樹や実生確認調査」を実施しました。
 - キレハイヌガラシ（外来種）、シロツメクサ（外来種）、セイヨウタンポポ（外来種）が優占しており、チューリップ（園芸種）も確認されました。
 - 侵入が確認された木本類は、以下の2種でやや少ない状況です。
 - ハルニレ（高さ20cm・高さ16cm）
 - エゾイタヤ（高さ5cm）
- 【提案1】 樹木が実生の段階では、生長の早い草本類との競合が生じることから、除草を行うのが望ましいと考えます。
- 【提案2】 現在、マルチングの碎石厚が4~8cmと厚いことから、実生が侵入しやすくするため、碎石厚を薄くするのが望ましいと考えます。

後ほど現地を確認しながら説明します。



ハルニレ



ハルニレ



エゾイタヤ

Ⅱ 春期自然環境調査結果について（速報）

3) 春期調査結果（速報）

(2) 鳥類

- 「鳥類相調査」（どんな種が生息するか確認）を実施しました。
 - ルートセンサス：一定のルート进行歩く調査
 - 定点調査：特定の定点で30分間の観察を行う調査
- 調査は6月15日~16日に実施しました。



Ⅱ 春期自然環境調査結果について（速報）

3) 春期調査結果（速報）

(2) 鳥類

- 樹林部ではアカゲラ、ムクドリや、水辺環境ではマガモやアオサギ、石狩川側ではコチドリやハクセキレイ、多目的広場（グラウンド）の開放空間ではハシブトガラス（幼鳥）などが確認されました。
- 重要種は、オシドリは水辺環境、オオムシクイが樹林部で確認されました。
- 公園内では、アカゲラ、ムクドリ、マガモなどの繁殖が確認されました。
- 鳥類の特定外来生物は、北海道に生息しておりません。
- 道条例の指定外来種に、鳥類の指定種はありません。



アカゲラ（繁殖）



ムクドリ（繁殖）



マガモ



マガモ家族群（繁殖）



アオサギ



ハクセキレイ



コチドリ



ハシブトガラス（幼鳥）

Ⅱ 春期自然環境調査結果について（速報）

3) 春期調査結果（速報）

(3) コウモリ調査

- 「両生類・は虫類・哺乳類相調査」のうち、コウモリ調査を実施しました。
 - コウモリ類調査：コウモリ類が発生する鳴き声を受信する機械（バットディテクターを用いる調査）
- 調査は6月15日夜間に実施しました。



Ⅱ 春期自然環境調査結果について（速報）

3) 春期調査結果（速報）

(3) コウモリ調査

- 整備前に確認されていた、ねぐら木のドロノキの樹洞から、重要種であるヤマコウモリ（重要種）の数十個体が出巢する様子が確認されました。
- ねぐら木以外の公園内、石狩川河川敷では、コウモリ類の確認はありませんでした。



ヤマコウモリのねぐら

重要種ヤマコウモリのねぐら木樹洞からの出巢の様子

Ⅱ 春期自然環境調査結果について（速報）

3) 春期調査結果（速報）

(4) 両生類・爬虫類・哺乳類調査（その他調査時に確認した種）

- 白鳥の池付近において、特定外来生物のミンクが確認されました。（5月22日植物調査時）
- ミンクは石狩川の河川敷から侵入してきたと考えられます。
- 公園内において、リス類やネズミ類の食痕を確認しました。（常磐プール裏）



白鳥池付近で確認されたミンク



リス類の食痕（オニグルミ）



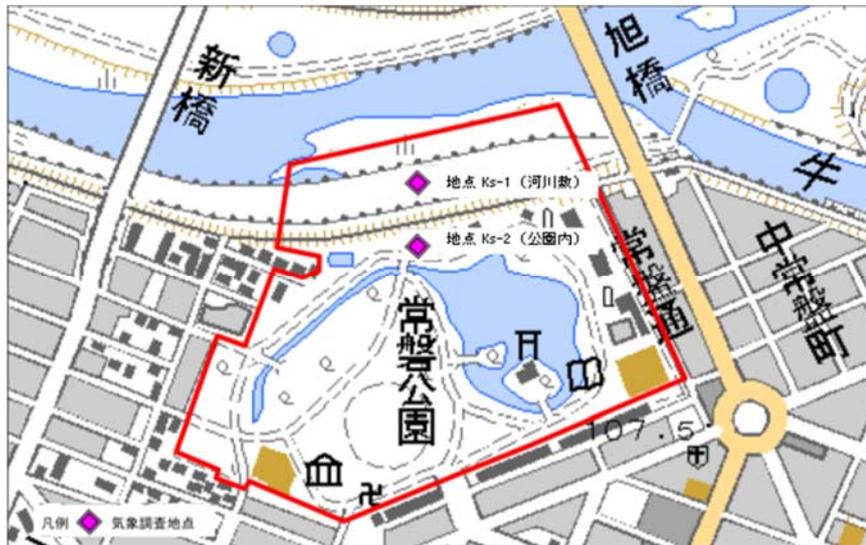
ネズミ類の食痕（オニグルミ）

Ⅱ 春期自然環境調査結果について（速報）

3) 春期調査結果（速報）

(5) 微気象調査結果

- 「微気象調査」（風向・風速・気温）を実施しました。
- 調査は以下の日程で実施しました。
 - 春期：5月24日～5月30日

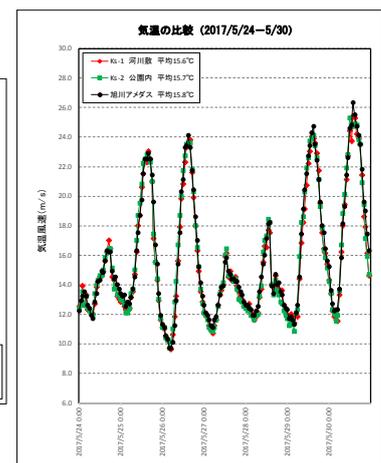
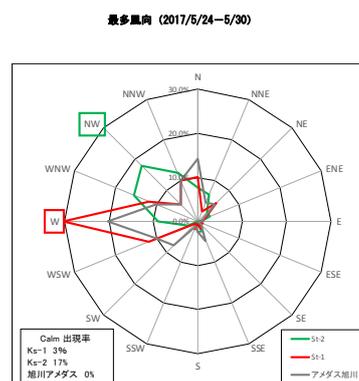
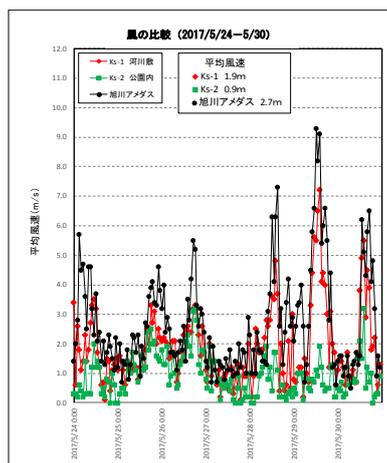


Ⅱ 春期自然環境調査結果について（速報）

3) 春期調査結果（速報）

(5) 微気象調査結果

- 春期の結果は以下の通りでした。
- 公園内の風向・風速は、河川敷と比較して静穏となる傾向でした
 - 平均風速は、河川敷（Ks-1）で1.9m/s、公園内（Ks-2）で0.9m/sでした。
 - 最多風向は、河川敷（Ks-1）が西、公園内（Ks-2）が北西とやや異なりました。
 - 静穏（calm：風速0.2m/s以下）の出現率は、河川敷（Ks-1）で3.0%、公園内（Ks-2）で17.0%でした。
- 気温は、河川敷（Ks-1）と公園内（Ks-2）の差はありませんでした。



(2) 自然更新ゾーンについて



エゾイタヤとハルニシの実生が確認されました。
どちらも風散布系の種子です。



今後の対応

- ・雑草の繁茂がはげしいので、雑草を引き抜きます。
- ・飛散防止に敷設した砂利が厚すぎるので厚さが2cm程度となるよう調整します。

春季自然環境調査結果も参照ください。

17

(3) ブッシュの設置状況について



☆協議ポイント☆

- ・今後の方向性について
- ・指標について

前回の説明より

池の下流で水辺が陸続きとなっている範囲を融雪後に試行的に造成します（巻末資料参照）。

- ・境界ラインに鉄ピントラロープで囲います。
- ・設置後は草刈り等の管理を行いません。（園路際除く）
- ・水路際の石張護岸は現在のところ取り壊しの予定はありません。

18

(4) オオハンゴンソウの除草について

位置図



H26約20株群生
H29約30株群生

フランスギクも確認されています。

イワミツバも群生しています。

H26
約100株群生



19

常磐公園に生息する特定・指定外来種

種和名	H26調査時	H29調査時	外来性
オオハンゴンソウ	約120株 (緩傾斜化部含む)	約30株	特定外来種
フランスギク	—	数株	指定外来種 (道条例)
イワミツバ	—	無数	指定外来種 (道条例)

特定外来種 ～ 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(以下、法律)に記載された種。生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす、又は及ぼすおそれがあるものとして、栽培や運搬が規制されています。

指定外来種 ～ 「北海道生物の多様性の保全等に関する条例」(平成27年度)で指定された種。上記2種は「北海道ブルーリスト2010」にて”北海道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除の必要性について検討する外来種”とされています。

20

オオハンゴンソウの特徴

オオハンゴンソウはキク科オオハンゴンソウ属に分類され、北アメリカ原産で、明治中期に観賞用として輸入されました。寒冷な地域に多く分布し、道内ではほぼ全域に生息域を拡大しています。

花：開花期は7～10月。ほかのキク科植物と同様黄色の舌状花が集まって頭状花を形成します。



葉：羽状に5～7裂し鋸歯がある特徴的な形状

繁殖特性：昆虫により受粉される虫媒花により種子を形成します。また、地上部が枯れたり切り取られても、残った地下茎から再生します。



茎：地面の中には横に走る地下茎がある。地上へは高さ1～3mほど生長します

※詳しくは巻末資料1をご参照ください。

21

オオハンゴンソウの除草方法

☆ポイント

- ・開花する時期である7月前に除草すると種子が形成されず有利
- ・地下茎から再生するので、地下茎ごと引き抜く



地下茎

株立ちしているような形状ですので、広範囲を掘り起こす必要はありません。

スコップ等で比較的容易に引き抜けます。

※安全に十分注意のうえ作業願います。

22

オオハンゴンソウの処分方法について

法律の内容

- ・ 第四条 栽培・保管・運搬の禁止
- ・ 第八条 譲り渡しの禁止
- ・ 第九条 放つ・植える・播くことの禁止
- ・ 違反者には罰則も有り

殺処分目的でも除草箇所からの運搬はせず、その場で埋設または焼却処理

公園内で枯れ草（ゴミ）を焼却することはできません。

除草ボランティア等の大きな支障に！

緩和措置

23

緩和措置内容

- ア) 防除した特定外来生物である植物を処分することを目的として、ごみの焼却施設等（最終処分場、収集センター等を含む）に運搬するものであること
- イ) 落下や種子の飛散等の逸出防止措置が運搬中にとられているものであること
- ウ) 特定外来生物の防除である旨、実施する主体、実施する日及び場所等を事前に告知するなど、公表された活動に伴って運搬するものであること

以上の条件をすべて満たせば、運搬の上処分してもよい。

IV まとめ

- 1) 意見など
- 2) 次回について
 - ・ 平成29年9月下旬を予定

24